

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201260		
法人名	社会福祉法人 清志会		
事業所名	紫明寮グループホーム		
所在地	熊本県天草市五和町二江567番地1		
自己評価作成日	令和2年1月27日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和2年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の要望や希望を尊重し、様々な地域行事等も職員にて調整し地域との交流を大切にしています。入居者のできることや、若い時の経験や知恵生かしながら職員・地域の方と一緒に日々の生活を元気に過ごされることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島の高台に建つおしゃれな洋館風の建物からは海が一望出来て、利用者の心を和ませてくれている。利用者の求めるものには出来る限り応えたいという気持ちを、職員全員が共有してケアに取り組んでいることは、外出支援の多いことからもうかがえる。法人全体としても職員の研修の機会が多くあり、研修参加後の報告書の作成と、情報共有のための話し合いの中で、管理者は職員の研修が個人個人のスキルアップに繋がっていると実感している。又施設長は、職員の家庭事情等を考慮して雇用形態を変えたり、コミュニケーションを大切に、職員が働きやすい職場環境づくりに配慮し、離職者の軽減に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日一日、親切・丁寧に、優しく・温かく、積極的に奉仕することを誓います」と勤務開始の際に、理念である誓いの言葉を発し、全ての入居者はもちろん地域住民、地域社会に対し理念に基づいて実践していくようにしており、話し合いの際に困ったり、意見が分かれた時は理念に基づいているかを振り返るようにしています。	母体特養の開設時に作られた「親切・丁寧に、優しく・温かく、積極的に奉仕する」の理念を、職員と管理者は共有し実践している。椅子から立ち上がろうとした利用者にさっと駆け寄りそっと歩行器を近づける管理者の姿、利用者に「お母さん」と呼ばれ家族のように優しく接している職員の姿など、評価当日確認することが出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加しています。入居者へ地域行事の参加・見学を促したり、ご本人が楽しみにしている行事等があればすぐに予定を組み込み参加され喜ばれています。	職員は、地域の一員として草刈りなどの奉仕活動に参加している。家族が野菜を差し入れにきたり、近くの温泉施設の帰りに立ち寄るなど、日常的に訪れる人が多い。また、地域の祭り・運動会・どんどやなどの行事には積極的に参加して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催。委員には区長・老人会長・民生委員をされている方が参加されています。事業所の運営状況を地域・老人会へ発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の入退去や入居者の表情や様子も分かるように会議資料に写真を掲載して報告しています。以前は、老人会長として推進会議に参加されていた方がグループホームへ入居され入居者代表として会議に参加されています。入居されてから感じたことを述べられ意見を参考にして取り組みを行っています。	運営推進会議は利用者代表、地域住民の代表、知見を有する者、包括支援センターの担当者等の出席のもと2か月に1度開かれています。そこでの意見や助言はその後会議やミーティングで検討してサービス向上に反映し、次の会議で報告しています。	運営推進会議議事録からは、意見が誰の発言なのか、ホームからどのように答えたのか等が不明である。意見交換の内容がよく分かるよう、議事録の充実が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、地域包括支援センターより参加いただき事業所運営に関する取り組みを伝えています。議事録は市の担当課へ送付し、意見の交換状況を伝えています。	書類の申請時等や質問がある際などは、直接市の担当者とは会い相談をしている。毎年行われている集団説明会では制度の改正に関する情報を得るだけでなく、ホームの実情を踏まえた助言を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	系列施設と合同の身体拘束廃止委員会があり、年2回以上の職員研修や月2回関連職種が集まり現状報告や改善方法等の話し合いを行っています。また、2か月に1回以上は身体拘束廃止委員会での話し合いを職員に周知と同時に他に対応策はないか等意見を考えようようにしています。	研修や勉強会等、身体拘束について学ぶ機会は多く設けられている。帰宅願望が強い利用者は車で島内1週することで落ち着きを取り戻したり、寝つきの悪い利用者には昼間畑に誘い体を動かすことで良眠へとつなげるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部や系列施設の研修会に参加しどのような言動が身体的・精神的虐待になるか職員が理解するようにしています。まずは、すべての職員が理念に基づいた言葉使いを徹底するようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の概要が、理解できるようパンフレットを置いています。職員も、ご家族からの質問に対応できるように、系列施設での研修や外部研修に参加し理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書や重要事項説明書の詳細について個々に十分説明しています。重要事項説明書などに改定の際には、ご家族に変更内容を説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告を詳しく行っています。毎月、おたよりと一緒に活動の写真を添えることによりご家族も元気な様子が伝わり喜ばれています。入居者からも日々の生活の中で、要望等も取り入れ臨機応変に対応しています。	苦情の受け付けについては、入居時に重要事項説明書で説明している。ホーム職員は利用者・家族に日頃から積極的に話しかけて、意見や要望がないか聞いている。家族に介護計画書を送付するときは要望書を同封するなど、意見を聞くための工夫がみられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員総会・月2回の主任会後の内容等を共有しホーム内にて意見・提案を聴き取りしています。職員の気づきで改善点が見つかった場合、すぐに話し合いを行いケアの統一を図っています。	職員会議やミーティングの他にも、管理者は職員が意見や要望を日頃から何でも話せるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望はすぐにホーム内で検討して運営に反映している。設備に関するような高額な物や日にちを要する案件は法人全体で検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の把握を行い、適正な労働条件で就業してもらっています。各研修会や系列施設での勉強会への参加・資格取得の積極的な呼びかけでやりがいやスキルアップを図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列施設と合同で定期的なテーマを決めた研修会や、外部の方による研修会も行われています。外部の研修会に参加した職員による研修会報告も随時行われておりケアの技術の向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修に参加し、研修を通して他施設職員との交流により意見交換を行うことができます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活を尊重しご本人との会話やご家族の要望等から望まれる生活について共に考えるよう支援しています。ご家族や友人等が系列施設の特養やデイサービスを利用して、面会や交流希望があれば系列施設と連携し支援をおこなっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人共に見学などの機会を設けています。ホーム内の説明と活動状況の案内を行いながら質問や相談を受け対応しご家族との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・ご家族と面談し生活歴や希望等を伺い、まず何が必要か考え支援を行っています。系列施設に、ご家族が利用されていて面会の希望があれば系列施設の職員と協力し面会の実現を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴等、職員間で共有することにより生活のあらゆる場面において助け合い・補い合って生活しています。毎日の生活の中で急な要望があっても臨機応変対応し喜ばれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊等、希望があれば安全に外出や外泊ができるよう職員も一緒に考えます。行事等を予定しているときは事前にご家族にお知らせし一緒に参加されるよう対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞い等を出し、ご家族や親類との交流を図っています。地域行事にも参加することにより出合いや会話を通じて地域交流に繋がっています。	利用者の多くが地元の地区に住まいがあり、近くの温泉施設を利用した馴染みの知人の訪問は良くある。職員は訪問者を歓迎しお茶などでおもてなしをして、利用者との関係を大切にしている。地区の行事にも積極的に利用者と参加して、馴染みの人や場所との関係が継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズな交流が図れるよう、毎日の生活のどの場面にも職員が間に入り橋渡しを行い、より良い関係が築けるよう支援しています。食事前の体操やボール遊び等皆さんで楽しく行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され系列施設に移られた後も系列施設の職員と情報を共有したり面会を行い交流を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の交流の中で、ご本人の思いをくみ取る努力をしています。地域の祭りに参加することを楽しみにされている方は日程を調整し祭りにお連れし楽しまれています。	日々の交流の中でも、入浴支援は一人ひとりとゆっくりと向き合える時間と捉え、本人の思いや希望を聞いている。内容はすぐに検討されて利用者の希望に沿ったプラン作りに反映されている。外泊希望など家族に協力が求められるものには情報を提供して思いが叶えられるような支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族・以前利用されていた施設職員からの情報を積極的に把握し、普段の会話や生活の様子を観察して好きなこと得意なことを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前には、ご家族やケアマネより生活歴や心身の状態等の情報を共有し入居後には系列施設の関連職種と連携しながら安全に生活できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者のケアチェック・他職員の気づき等の他、ご家族の意向も確認し介護計画書を作成しています。半年毎のモニタリングでの結果や心身の変化が著しい場合は都度話し合いながらプランの作成を行っています。	介護計画は利用者・家族の思い、職員の意見等を反映させた家庭的なプラン作りをしている。定期的にモニタリングを行い、利用者の状況に変化が生じた場合はその都度担当で話し合い、現状に即した介護計画となるよう見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきある度に担当者会議を開催しています。気づき・変更事項等は、記録に残し全職員の回覧にてケアの統一を図っています。又、個別のケース記録に残し、実践状況も確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な買い物等の要望や様々な地域行事にも臨機応変に対応しています。お店の方とも顔なじみで交流を大切にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事予定表をいただき日程を把握し参加しています。行事に参加することにより次の行事へのお誘いもあっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族と話し合いを行い協力医療機関をかかりつけ医にいただいています。かかりつけ医による診断を受け、病気の早期発見に努めています。体調不良による急な通院や入退院にも早急に対応しています。	かかりつけ医は、入居時に本人・家族の同意を得て協力医療機関に移行している。眼科や泌尿器科等への受診は職員が同行し、医療機関との情報交換に努め、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、系列施設への報告を行っています。状態の変化もすぐに報告し、かかりつけ医から指示が受けられる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人に関する詳しい情報提供を行い、安心して入院ができるように支援しています。長期の入院の際には職員が面会し状態の把握を行いご家族にも連絡する他、入院先医療機関のカンファレンスに出席し現状の把握と今後についての話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人が重度化された場合は系列施設である特養にお移りいただいて、安心した介護が受けられるという事を入所時にご本人・ご家族へお話ししています。	重度化した場合は優先的に特養に移っていただくことを、入居時に本人・家族と話し合いをして説明している。状態に応じ、その都度主治医からも家族に説明があり、意向を再確認している。法人特養へ移行後も、ホームの職員は施設を度々訪問して利用者が安心してできるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に系列施設で開催の緊急時対応・事故発生防止の為に指標等や外部でのAED・心肺蘇生等救急法の勉強会に参加し適切な初期対応ができるようにしています。又、系列施設の看護職員と連携し急変時の連絡事項を統一し早急な対応に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網(グループホーム単独・系列施設)を整備し緊急時の連絡訓練をしています。又、火災(夜間想定を含む)等の避難対処訓練も実施しています。年2回の避難訓練、消防訓練を実施。系列施設からの応援を組み入れ避難時間の短縮になっています。一斉メールを利用し全職員に連絡が届くようになっていきます。	年2回、日中・夜間を想定し、利用者も参加しての避難訓練を実施している。消防署には計画書を提出し、直接通報をする訓練を行っている。法人職員の多くが区内に住み、地域の消防団に所属しており、災害時の協力体制が構築されている。	法人特養を豪雨災害等の避難所としているが、避難経路が断たれた場合も想定し、食糧等の備蓄をホーム内に備えておくことの検討も必要かと思われる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時に女性入居者の方にはバスタオルを身体に掛けるなどの配慮を行いプライバシー保護に努めています。	職員は、研修や勉強会等で人権の尊重等について学び報告して意識を高めている。特に言葉遣いには留意しており、年長者を敬う気持ちを全職員で共有し、丁寧な親しみを込めた言葉かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外部への面会や外出希望の方には職員も同行し自由に外出されています。行事等の日程も説明し自由に参加されています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間の変更や買い物などの希望があれば職員が臨機応変に対応し支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の起床時や、就寝時に洗顔や口腔ケアを日課とされる方には洗面台に誘導し用具を準備すると自力で実施されています。外出時に化粧される方には出発の時間をお知らせして化粧をされてから外出されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームに畑があり、季節の旬に合わせた野菜を収穫することができます。スイカ割りや干し柿・干し大根作り等、入居者と一緒に作業のコツ等を教わりながら行い実際に調理し食事を楽しんでいます。	ホームの畑で、野菜作りを得意とする職員により育てられた旬の野菜が献立に取り入れられ、職員により優しい味付けで調理された美味しい食事が提供されている。正月・花見・運動会等の行事には、法人特養からシェフにより作られた料理が届けられたり、誕生日には職員手作りのケーキがふるまわれるなど、利用者の楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食と10時・15時のおやつ摂取量・水分量をチェックしています。系列施設の管理栄養士や言語療法士の協力により健康・咀嚼状態により様々な対応を行っています。スイカ割りやかき氷等夏場、水分摂取が特に必要な時は楽しみながらの水分確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は必ず実施し毎食後の希望の方には、歯磨き誘導を行っています。残存歯がある方は磨き援助を行い夜間は預かっています。咀嚼、嚥下状態を観ながら口腔内に異常があれば歯科通院の援助も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	系列施設の理学療法士と連携し、トイレの手摺りの導入やポータブルトイレの高さや配置を個人の残存機能を生かしながらご自身で排泄ができるよう支援を行っています。	排泄記録表に記録して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を適切なタイミングで行えるように心がけている。特養の理学療法士の助言を受けて、トイレでの排泄が無理なく安全に出来るように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、排便を促す食物繊維を料理に取り入れながら体調を観察し散歩や訓練・体操等の運動も行っています。朝食に、牛乳やヤクルトを希望される方には提供し排便の促しになっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日実施しています。入浴する際に介助用具が必要であれば、系列施設の理学療法士と一緒に検討し個々の身体状況に合わせて個浴や機械浴を実施しています。菖蒲湯や柚子湯等季節を感じられる工夫も行っています。	入浴は利用者に毎日希望を聞いて実施している。しょうぶ湯・柚子湯の他、時には職員持ち込みの薔薇でバラ湯を楽しむ工夫もある。一般浴槽に入るのが困難な利用者には機械浴を利用しており、身体的負担を減らしゆっくりと入浴を楽しめる支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビ前のソファーに座りテレビ鑑賞されたり会話をして過ごされています。冬場にはブランケットを用意する等対応しています。お好きな時間に居室に戻られ、居室で休まれる際も空調等を調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬リストにより、用法・用量・目的など職員に申し送りし把握するようにしています。注意事項、副作用についても注意しています。体調により追加の投薬があった場合も内容の把握に努めています。誤薬防止の為、職員二人体制にてチェックも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇やプランターへの花植え等楽しみにされています。畑で収穫した野菜の土洗い等もされています。洗濯干しやたたみも積極的に行われています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の祭りを見学希望があれば日程を調整し、お連れし喜ばれています。様々な行事等も職員同士で協力し参加されています。	初詣や、桜・つつじ・あじさい等季節の花見などの外出支援は多く、家族アンケートでも大多数の家族が「よく出かける」と答えている。会話の中での利用者の外出希望は管理者に伝えられ、できるだけみんなで出かけられるよう取り組んでいる。外出支援のための車両も完備されていて、車いす対応や、個別、グループそれぞれの外出に対応が来ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があったり、ドライブの帰りなどに買い物を実施しています。地域の商店より月に1回訪問販売も行われおり購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を作成しご家族等に出されています。文書を書くことが困難な方には、代筆する等の対応を行っています。お届け物等が届いた際にはお礼の電話や手紙などで返事を出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入り、リビングと間仕切りのない広々とした空間が広がっています。系列施設での作品展に展示する為の、作品を作り展示後はグループホームに飾っています。行事の写真等も一緒に掲示することでご家族と一緒に楽しんでいます。	明るく清潔感のある広いリビングの家具は、利用者の行動を妨げない配置の工夫が感じられる。作品展示コーナーには作品展に出品された利用者の力作が並び、訪れる人をも楽しませている。ホーム内には職員が庭で育てた花や通勤途中で摘んだ菜の花がかざられ、季節を感じる事が出来る。新聞を読んだり、テレビを見たり、居眠りをしたりと、思い思いにのんびりと過ごす穏やかな利用者の日常が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングは可動式の間仕切りで目的に応じた空間を提供することができます。リビングのソファやテーブルにて会話や趣味を皆さんで楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご家族と相談し、寝具や家具類を自宅で使用されていたものを持ち込んでいただいています。グループワーク等での絵や写真等も飾り明るい部屋作りを目指しています。	広い居室からは慣れ親しんだ海が見え、シンプルながら落ち着ける空間となっている。家族写真や使い慣れた家具類を持ち込んだり、寂しくないようにと、家族が用意したぬいぐるみやおしゃべりをする人形などが置かれていたり、その人らしい部屋作りへの努力がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自発的にホーム内にて訓練や、外に出て散歩される方には怪我や転倒に注意し安全に訓練ができるように環境整備に努めています。		